

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

この度弊社では下記の検査項目につきまして、検査内容を変更させていただきます。変更までに期間はありますが、変更内容を鑑み先立ちましてご案内申し上げます。

令和3年4月1日（水）受付分からは、JSCC法（JSCC：日本臨床化学会）での検査を中止しIFCC法（IFCC：国際臨床化学連合）に変更いたしますので、予めご了承の程お願いいたします。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

検査内容変更項目

コード	検査項目	変更箇所	新	旧	備考
345	ALP (アルカリフォスファターゼ)	検査方法	IFCC標準化 対応法	JSCC標準化 対応法	総合検査のご案内 P11 JCCLS臨床検査 共用基準範囲
		基準値	U/L 38 ~ 113	U/L 105 ~ 330	
348	LD (乳酸脱水素酵素)	検査方法	IFCC標準化 対応法	JSCC標準化 対応法	総合検査のご案内 P11
		基準値	U/L 変更は ございません	U/L 120 ~ 245	

※ 検査コード、検査項目名および所要日数の変更はございません。

※ 相関図、回帰式等につきましては次回にお知らせいたします。

実施期日

- 令和3年4月1日（木）受付日分より

【 ALP（アルカリフォスファターゼ） 】

現行法である JSCC 法は小腸型 ALP の反応性が高い試薬処方が採用されています。血液型が B、O 型で Se (Fut2) が分泌型の人 (B、O 型の約 8 割) では病気と無関係に血中に小腸型 ALP が出現することから、JSCC 法はその影響で臨床的意義が認められない高値が出現する場合があります。また、胎盤型 ALP は小腸型とは逆に IFCC 法に比べて JSCC 法では反応性が低いという特徴があります。

変更による利点としましては、上記の理由で疾患と無関係な上昇が軽減し、肝・骨疾患の臨床的意義が向上し、測定値を海外と共有化でき、国際的な治験や治療への参画時に利便性が向上します。注意点として測定値が JSCC 法の 1/3 程度になり、それに伴い基準値が変更になります。

【 LD（乳酸脱水素酵素） 】

現行法である JSCC 法はアイソザイムの LD5 が相対的に高く測定されます。これに対して、海外では IFCC の基準測定操作法の測定条件で LD1 と LD5 がほぼ同等に測定される IFCC 法を用いています。そのため JSCC 法で測定している現在は、LD5 の割合が高い症例で IFCC 法より高値傾向を示します。

国際的な治験では ALP 同様に測定値を海外と共有化できます。

《 参考 URL 》

一般社団法人 日本臨床化学会「ALP、LDの測定方法の変更に関するご案内」
(<http://jsc-jp.gr.jp/>)